聖霊降臨節第 20 主日礼拝説教要旨(10 月 4 日)

『地の果てまで』早川 真牧師

イザヤ書 49:1-6

聖書には、神がなぜイスラエルの民を選ばれたのかということが記されています。それは、イスラエルの民がどの民族よりも貧弱であったからです。しかし、そのような弱いイスラエルの民を通してこそ、神の力が現れるというのです。

イザヤはもともと弱い人間でした。罪深い一人の人間でした。しかしそのイザヤを神は選ばれ、ご自分の大きな使命を与えられました。イザヤはそのことを思い出したのでしょう。自分に与えられた使命がいかに空しく思えようとも、神はそのことを良しとし、必ず報いてくださる、そのことがイザヤの力となったのでした。

この僕の歌は、究極的にはキリストにおいて実現しました。キリストこそ、神でありながら僕の身分となって、神の御心に仕え、混沌とした私たちの内に救いの光をもたらしてくださった方です。

そして、イエス・キリストを信じる者は皆、それぞれが地の果てまで救いをもたらす光となったと今朝の個所は告げています。聖書においては、未来のことを完了形で語ることがあります。それは、神が語られる場合です。神が語られた以上、それは将来のことでありながら確実なことなので、完了形で書かれています。

教会の伝道の働きもまた思うように進むものではありません。イザヤのように、私たちの働きがうつろに空しく感じる時も多いことでしょう。しかし神はまた私たちにもあなたを国々の光としたと言われます。永遠のお方である神様は、それぞれの置かれている場所で、「私はもう、国々の光となったあなたを見ている」と言われます。日々弱さや罪深さを覚える私たちですが、そこにこそ輝く主の光を信じて、主の救いを地の果てまでもたらす歩みを共に続けてまいりたいと思います。